

道内各地で進展する地方創生プロジェクトの最前線をクローズアップ！

北海道創生ジャーナル

創る

Vol. 20

2022.7

その先の、道へ。北海道
Hokkaido.Expanding Horizons.

CONTENTS

特集 走ろう！巡ろう！北海道！

01 自転車を活かしたまちづくり

- サイクリストを呼び込み地域活性化につなげる(増毛町)
- サイクリスト目線の環境整備で人を呼び込む(石狩市)

05 地域が動く・プロジェクト最前線

- 北見市 地元出身IT人材が帰ってくる場所
先端技術と大自然が混ざり合う『オホーツクバレー』の実現を目指して

07 「なおみちカフェ」から ～地域創生のヒントを探る～

- 知事が訪問した地域で活躍されている方々を紹介するコーナー
- 空知編 雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス
 - 根室編 有限会社 別海町酪農研修牧場

09 「つながる。HUBest」 [北海道型ワーケーションの推進]

- 人と地域との新たなつながりを生み出すワーク施設とコンシェルジュを紹介
- SAPPORO Incubation Hub DRIVE 高輪健人さん(札幌市)
 - コワーキングスペースJIMBA 立川彰さん(津別町)

特集



走ろう！巡ろう！北海道！

自転車を活かしたまちづくり



社会環境の変化に伴い、自転車の果たす役割は、環境負荷の低減や健康増進、観光振興、災害時の活用など、大きく広がってきています。今回は、北海道と市町村の役割や取組状況をご紹介します。

道の取組

道では、平成29年に国で策定された「自転車活用推進計画」を踏まえ、自転車の活用及び安全な利用の促進に向け平成30年4月に「北海道自転車条例」

北海道自転車利活用推進計画で目指す3つの姿

- ① 自転車を 知る・使う
自転車の魅力を生かした多様なサイクルスタイルの実現のため、自転車の利用促進に関する普及啓発・活用の推進、自転車利用環境の整備を推進しています。
- ② 自転車を 安全・安心に
自転車を安全で安心に利用することのできる環境の構築のため、交通安全教育の推進、自転車損害賠償保険等への加入促進の強化、災害時における自転車の活用を推進しています。
- ③ 自転車を 楽しく・快適に
北海道の特性を生かしたサイクルツーリズムの推進にむけて、国内外のサイクリストの誘客、北海道の特性を生かしたサイクリング環境の創出を目指しています。



▲道路に設置された案内標識

サイクルルートマップ作成の様子



を施行し、平成31年3月「北海道自転車利活用推進計画」を策定しました。サイクリング周遊拠点整備のためのサイクルラック等の設置支援や大規模自転車道の整備、自転車の活用と安全利用を周知するためのイベントを開催するなど様々な取組を実施しています。

市町村の取組

道が策定した活用推進計画を参考に、市町村においても自転車の活用に向けた取組の実施が求められています。サイクルツーリズムによる地域活性化を図るためサイクルルートマップの作成や、快適に走行するための案内標識の整備などが進められています。

また、小、中、高校生を対象とした交通安全教室を開催することで交通安全意識を持ってもらうなど、地域の実情にあわせた取組を実施し、全道が一体となり取組を進めています。

令和4年度の取組

道では、「もっと、自転車北海道。」をキャッチフレーズに定め、「環境・観光・健康」をテーマに誰もが安全・快適で楽しく自転車を活用できるように次の取組を実施します。

- ① 体験型PRイベントの開催
- ② SNS等を活用した普及啓発・情報発信
- ③ 官民連携による自転車通勤促進

- ④ 自転車を安心安全に利用するための取組
- ⑤ サイクルツーリズムの推進

最後に

周遊拠点の整備や道路の整備、サイクルルートマップの作成など、自転車で安全に快適に走れる環境を整備することで、自転車利用者の増加や道内外から訪れるサイクリストの増加に繋がるものと考えています。自転車利用者が増加すれば、環境負荷の低減や健康増進だけでなく、各地域への周遊人口・交流人口の増加も期待され、地域の活性化に繋がっていきます。北海道では、様々な取組を実施し、「環境に◎観光に◎健康に◎もっと、自転車北海道。」の実現を目指します。

次ページからは、自転車を活用したまちづくりに取り組んでいる、道内自治体を紹介します。





▲オロロンラインを走るサイクリスト

増毛町は留萌振興局管内の南部に位置し、日本海の雄冬海岸と暑寒別岳を擁する町。エビやホタテなどの海産物が豊富なことに加え、広大な果樹地帯を擁し、サクランボやリンゴなど、フルーツの里としても有名です。

また、旧増毛駅を中心に道内最古の木造校舎である旧増毛小学校を始め北海道遺産に選定された建造物も建ち並び、自然、文化、食を気軽に楽しめるコンパクトに集積された街並みとなっています。

増毛町

サイクリストを呼び込み 地域活性化につなげる

【お問い合わせ先】
商工観光課
TEL:0164-53-3332

通過するサイクリストを呼び込む

日本海岸沿いには、「オロロンライン」と呼ばれる、小樽から稚内まで約320kmも続く国道が通っています。景色が良くシーニックバイウェイに認定されていることもあり、従前から、夏場を中心に自動車やバイクとあわせてサイクリストが多く通過していると感じており、このサイクリストにぜひ当町にも立ち寄りていただき町の魅力を知ってもらおうと考え、同じ海岸沿いにある隣町の石狩市とともに「石狩北部・増毛サイクルツーリズム推進協議会」を立ち上げ、自転車を核としたまちづくりへの検討を始めました。

具体的な取組

海風を感じながらオロロンラインを走る、自然豊かな最高のロケーションを存分に満喫できる、近隣町村の田園地帯から海に繋がるサイクルルートマップの作成が行われました。

また、さらに街中に呼び込むため、歴史的建造物が建ち並ぶふるさと歴史通りや果樹地帯など、人気スポットが



▲国稀酒造

手近なところにコンパクトに集積されている増毛町内をぐるっと気軽に周回できるコースも作成しています。

この取組の背景には、通過するサイクリストを呼び込むことにより、留萌管内だけでなく石狩管内との周遊圏域を形成し人の交流増加につなげたいという思いがあります。

現在目標としているのが、ガイド付きサイクリングツアーの実施です。昨年度から協議会でガイドの育成を行っており、今後モニターツアーによる検証を進める予定で、最終的にはガイドツアーを、更なる人の呼び込みやツアーを通じた町の魅力の再発見まで視野に入れた取組にできよう検討しています。

さらなる可能性に向けて

増毛町の本格的な取組はまだ始まって数年ですが、自転車による地域活性化の取組を進めていくことはもとより、増毛町では「高血圧ゼロのまち」を目指し、町民の健康作りや基礎体力の増進など、健康寿命の延伸に向けた取組を実施していることから、自転車を健康づくりのためのツールの一つとして活用できると考えています。

町民にとっても観光客にとっても取り組みやすいツールである「自転車」を活かし、関係人口や交流人口の増加に繋げていきたいと考えています。

今後も更なる取組による地域活性化に期待が掛かります。



▲街中を走るサイクリスト



石狩市

サイクリスト目線の環境整備で
人呼び込む



【お問い合わせ先】
企画経済部企画課
TEL:0133-72-3193

石狩市は、札幌市の北側に隣接し、日本海、石狩川、黄金山など、雄大な自然景観に恵まれたまちです。日本海沿いの絶景を求めて高まるサイクリングニーズに応え、市では、「自転車」を活用した地域活性化に取り組んでいます。

「自転車」に着目した理由

日常の中でありふれたモノのひとつである「自転車」ですが、地域活性化のため着目した理由は、その「気軽さ」にあります。

日常生活で自転車を利用する人、サイクリング・スポーツとして自転車を



楽しむ人、両方をターゲットにした自転車の取組」を実施できたら、市内での交流人口が増加し、道の駅を含めた周遊観光の確立が図れるのではないかと、その思いから、石狩市では地域活性化に活かせないかと検討を始めました。

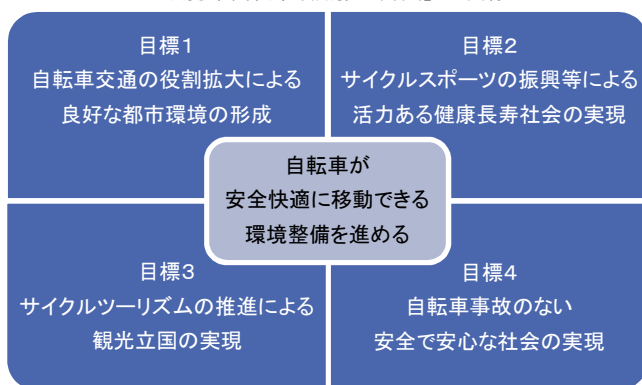
「石狩市自転車活用推進計画」の策定

自転車への注目度が徐々に高まってきている中で、まずは安全で快適に走行できる環境整備が必要だと考えました。サイクリングツアー企業である株式会社サイクリングフロンティアの石塚代表に話を伺ったり、自転車の聖地「しまなみ海道」を支えた愛媛県を参考とし検討を進めていく中で、石狩市だけではなく、国や北海道、関係団体と連携し、一体的に取り組むことと、明確なビジョンを持つて進めることが必要不可欠だと判断し、計画の策定に着手しました。

そして、平成31年3月、道内市町村で初となる、自転車活用推進法に基づく「石狩市自転車活用推進計画」を策定しました。

計画の検討にあたっては協議会を設置し、国、道、前述した株式会社サイクリングフロンティアや大学教授のほか、一般公募で市民の方も構成員になっていただくことで市民の声を反映させています。

「石狩市自転車活用推進計画」の目標



石狩市の取組

石狩市では、自転車が安全で快適に走行できる環境整備を目標に掲げ、サイクリストの目線から、ハード・ソフト両面での取組を実施しています。

石狩市には、道外や石狩市外の道内市町村から、旅行や観光の一環としてサイクリングに訪れる方も多く、令和4年のゴールデンウィークに道の駅「あいろーど厚田」で実施したアンケート

ト調査では、回答者の約8割が石狩市外から訪れた方でした。石狩市は車の交通量が少なく、信号も少ないという道路が多くあります。そうした道路は自転車で行りやすいため、多くのサイクリストが市外から訪れます。加えてサイクリングコースを示す「矢羽根型路面表示」や主要な分岐点や休憩施設を導く「案内標識」を設置することにより、さらに安全で快適に走行できる環境を整備しています。



▲道の駅「あいろーど厚田」

また、休憩場所に活用できるサイクリング拠点の整備にも力を入れていきます。カロリー消費の大きいサイクリングでは、適宜、休憩を取ることが大切です。そこで、サイクルラックを市内の4カ所に設置し、そのうち、道の駅「あいろーど厚田」を含む3カ所に空気入れなどの工具を設置しました。こうした拠点の整備により、サイクリス



▲道の駅「あいロード厚田」に設置されたサイクルラック

トの休憩場所・交流場所が増え、サイクリスト同士の交流や地域住民との交流、さらに経済的な効果も生まれ、地域活性化に繋がっています。

物理的な自転車走行空間の整備にとどまらず、石狩市では、小、中学生を対象に、サイクリングガイドによる自転車の正しい乗り方やルールの啓発といった交通安全意識の醸成に取り組んでいます。サイクリングガイドによる安全教育を行うことで、交通ルールの徹底を図るとともに、自転車への興味を持つてもらい、次代の自転車文化を担う世代の意識啓発に取り組んでいます。

民間企業との連携

行政だけではなく、民間企業とも連携した取組を進めています。前述した株式会社サイクリングフロンティアの石塚代表とは、推進計画の策定以前からご協力いただいております。サイクリングガイドとしての目線から、推進計画の策定やサイクルルートの作成の監修をお願いしています。

また、サイクリングガイドを増やすことを目標に石塚代表を講師としてサイクリングガイドセミナーも実施しています。

近隣町村との連携

これまでは石狩市単独で、自転車を活用した地域活性化に取り組んできましたが、広域で連携することにより、山、海、川、建築物など、各自治体を持っている地域資源を活かして情報発信するために、当別町、増毛町、新篠津村と連携し、「石狩北部・増毛サイクルツーリズム推進協議会」を立ち上げました。

協議会では、広域のサイクルルートマップの作成などを行っています。近隣地域と連携することで、観光資源等それぞれの強みを活かした、より多様な魅力を含んだサイクルルートが完成しました。一つの市町村を訪れて終わ

りではなく、次は他の市町村にも訪れる人、リピーター（何度も訪れる人）が増えることによって、サイクリストたちに新たな立ち寄り先、旅行先として各市町村が認識され、周遊してもらうことを狙っています。

また、自転車という共通のテーマで近隣地域と連携することによって、同じ目線や意識を持った人が集まり、さらなるプロジェクトへと繋がっています。

「散走」気軽に散歩するように走る

今回、取材させていただいた石狩市のご担当者は、「『散走』というコンセプトがあります。気軽に、散歩するように走るといふ自転車の楽しみ方です。走ってみないとわからないことばかりですが、何事も、まずは気軽に、散歩するように走り出してみ、仲間を増やしていくことから始まり、同じ意識を持った人たちが集まれば、そこからプロジェクトが生まれていくと思います。」とお話くださいました。

あらゆる世代の方が、気軽に自転車を楽しめるよう、その時々々のニーズに的確に対応し、走りやすい環境を提供しつつけることで、更なる自転車文化の深まりに期待が掛かります。



▲サイクリングガイドを受けに多くのサイクリストが訪れる弁天歴史公園内に設置された観光案内所



▲お話を伺った石狩市企画経済部企画課上窪課長（右）と江島主査（左）